

まことにゆるい話で恐縮ですが、箸休めの一編と思しのご笑覧下さい。

我が家は大阪万博公園の西端から南西約 2.5 キロに位置するマンションの 5 階にあります。この辺りは 70 年の大阪万博の時に開発された地域で、それまではあまり人手が入っていなかったそうです。この一帯は大阪からは鬼門の方角に当たるので、高度成長期の折も市内からの移住者が少なく、開発が進まなかったという話を聞いた事があります。

この地域の開発主体は民ではなく官（大阪府）であったので、当時の発達した都市計画理論に従って開発され、自然と住居がゆったりとバランスよく、ゆとりのある配置になっております。

雨が降らない限り、夕方には近くの公園（千里南公園）を散歩するのが私の日課になっております。この公園はかなり広く、グーグルの地図で面積を計算すると約 10 万平方メートルあります。公園の南部に大きな池があり、これを囲むように東、北、西北に小高い山があります。自然の山林をそのまま公園にしているのも、都会の公園の様な幾何学的な配置にはなっておりません。公園の散歩道はこれら山の裾を巡るコースと池の周辺を巡るコースがありますが、私が公園を散歩する時は運動量を稼ぐためにこの三つの山頂を通る事にしております。屈伸運動をしたりコース内にある運動設備を使ったりしながらゆっくり公園を 1 回りすると 1 時間近くかかり、歩数は約 5 千になります。



(公園の池)



(野外舞台)

数年前の事です。梅雨明け近い曇天の夕方、何時ものように散歩に出かけました。東の山を通過して北の山に登ると、通路脇の松の木立の上に 10 羽ほどのカラスがたむろして、かしましく騒いでおりました。ここは彼らのたまり場になっているらしく、よく見かける光景です。

何時ものようにその下を通り過ぎようとした時、1 羽のカラスが一段と声を張り上げ、4 声鳴いては少し間を置き、また 4 声鳴いては間を置く事を繰り返しました。どこかに向けて何かを呼び掛けている様です。少し悪戯心を起こし、彼の声を真似る事にしました。辺りに人気のない事を確かめて、向こうが 4 声鳴いた後私も両手をメガホンにして 4 声真似ました。すると向こうもまたそれに応えるように 4 声鳴きます。私も 4 声、向こうも 4 声・・・4 回ほど繰り返すと向こうの声色が変わって来ました。少し低い声になって、R 音の多い巻き舌風のドスの効いた濁った声になりました。何となく不穏な気配を感じ、すぐに真似るのを止め、その場を離れて山を下り始めました。すると後ろからバサバサと激しい羽音がして、1 羽のカラスが頭上すれすれに飛び越して、少し離れた向かいの木の枝に止まり、こちらを向いて大口を開けてカーと鳴きました。大きく開けた口から喉の奥までの赤々とした色が鮮明に目を射ました。拙い事になったなど、なる

べく目を合わせない様に下を向いて急ぎ足で山を下りました。すると、また激しい羽音と共に例の奴が今度は前方から頭上を掠めて後方へと飛び去りました。こうなっては走ったところで間に合わないだろうし、どうしたものかと少し狼狽しながら足元を見ると手ごろな小枝があったので、すぐにそれを拾い上げて頭の上で振り回しました。もう1度不埒な行為をしたらどんな運命が待っているかを知らしめたのです。それが功を奏したのか、それ以上襲って来る事はなく後ろの樹上で鳴き声だけが姦しく響いておりました。

翌日の夕方散歩に出かけようとしたら、昨日のあのカラス話を聞いて腹を抱えていた家内が、「カラスは頭がいいから顔を覚えられているかもよ。目立たない様にこれを着て行きなさい」と少し地味なグレーのシャツを出してくれました。

あの小山の麓に着いた時、昨日の記憶がまだ連中には鮮明に残っているであろうから、用心のために手ごろな小枝を拾いあげ、敵意を見せない様にそれを脇の下に隠して山を登りました。昨日の松の木には今日も数羽がたむろしてしきりに鳴き合っておりました。近づくと幾らか声高にはなりましたが、格別の動きはなかったのではとしました。

それにしても、腹立ちまぎれとは言え、自分の体重の何十倍もの相手に襲い掛かるなんて身の程知らずの無分別なカラスもいるものだなあと感じておりました。

その後しばらくして、何かの本でカラスは成長するにつれて口の中から喉の奥辺りまで黒くなると書いてあるのを読みました。成るほど納得!! 大口を開けて喚いていたあのカー公は、まだ年端のいかぬ世間知らずの若造だったのだと。

その後カラスの口の中が黒い事を確かめようと、時々カラスに餌など投げ与えてその口の中を見ようとしたのですが、連中は大きく口を開けることはなく、餌が目前に迫ると目にも止まらぬ速さで啜え込んでしまうので、なかなか口内の色を断定する事ができませんでしたが、繰り返している内に、喉の奥までは見る事が出来ませんが、嘴の内側が黒い事だけは何とか確認できました。

その後も公園の散歩中に、稀にあの不気味な鳴き声が樹上から聞こえて来る事があります。さては何かで不満を囿っている奴が憤懣をぶちまけているのだなと思いながら、その下を歩いて散歩を続けます。